令和６年度３月学位授与式

式辞

　本日、ここに卒業・修了される皆さんをお迎えし、令和６年度山梨県立大学学位授与式を挙行できますことは、本学にとって大きな慶びであります。
　ただ今、国際政策学部卒業生９２名、人間福祉学部卒業生７９名、看護学部卒業生１００名、以上学部卒業生２７１名、さらに大学院看護学研究科修士課程修了生１名、博士前期課程修了生２名の皆さんに、学位記をお渡しいたしました。

　学部卒業生、並びに大学院修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんが山梨県立大学で日々、切磋琢磨し、努力を積み重ねてきた成果を本日ここに祝福できることを、心から嬉しく思います。また、学生の学びを支え、応援してくださった保護者の皆様、ご家族の皆様、そして教職員の皆様にも、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

　そして、本日は公務ご多用の中、山梨県副知事　長田　公（おさだ　こう）様をはじめ、各界や団体を代表される関係各位のご臨席をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

　さて、現代社会は、急速な変化の潮流にあります。未曾有の災害である新型コロナウイルスの蔓延によって社会活動の大転換を強いられたことは記憶に新しく、また、ウクライナとロシアの間で勃発した戦争をはじめ世界各地で続いている紛争、さらには、地球温暖化の進行による自然災害の甚大化など、先の見通せない予測困難な事態が起こっています。
　日常の出来事が一瞬で世界中に伝わる中、各地で起こっていることを、対岸の火事ではなく、自分の事としてとらえ、何が真実かを冷静に見極め、考え、行動する力が必要とされ、これまで以上に柔軟で、創造的で、そして協力的であることが求められています。

山梨県立大学は、「地域社会に根ざし、国際的な視野を持つ人材の育成」を理念とし、教育と研究を通じて社会貢献を果たすことを目的としています。皆さんが、この学び舎で培った知識と経験を活かし、社会に新たな価値をもたらす存在になることは間違いありません。

日本は今、グローバルな諸課題に直面しながらも、成長の道を模索し続けています。社会全体は IoT や AI 技術に基づく知識集約型へと移行し、新たな価値観も生まれています。一方で、少子化が急激に進行し、人口減少という社会課題にも直面しています。
こうした時代において、本日卒業される皆さんは、持続可能な未来社会を築き、それを発展させていく、重要な担い手です。

そこで、これから社会へと羽ばたく皆さんに、私からの「はなむけ」の言葉を贈りたいと思います。

まずは、「学び続けること」。
大学での学びは終わることなく、卒業はむしろ新たな学びの始まりです。この情報が溢れる時代において、正しい情報を選び、問いを立て、深く考え、自分の意見を持つことが不可欠です。学びは自分を創造する営みであり、どの分野に進んだとしても、好奇心を持ち、新たな知識を吸収し続け、課題を解決し、真理を追究していくことが、自身の成長と社会の発展に繋がると言っても過言ではありません。

次に、「自分と異なるコトやモノを受け入れること」。
世界は多様な価値観と文化で成り立っています。皆さんもまた、世界の様々な文化に触れ、自分と異なる考えを持つ人と対話し、お互いに尊重し合うことを体験し、視野を広げていってください。また、新型コロナウイルスのような、異質なモノの本質を解明し、それとの共存を図ることも今後必要となっていくでしょう。

そして、「挑戦すること」。
新しい道を切り拓くことは、時に不安や恐れを伴います。しかし、困難を乗

り越えた先には必ず成長があります。失敗を恐れず、挑戦を重ねることで、未来を切り開く力は身についていくのです。

　皆さんが過ごした学生生活、そしてこれから過ごしていく暮らしの事実の中にこそ真理があります。学び続け、他を受け入れ、挑戦することは、真理を理解し、自らの成長を促すことに繋がるのです。皆さんの歩んでいく道の先には必ずや輝かしい光がさしてくるものと信じております。

　結びになりますが、老子に「千里の行（こう）も足元（そっか）より始まる」という言葉があります。どんなに遠くにあって壮大な目標でも、最初の第一歩から始まり、歩幅は小さくとも着実に歩みを続けていくことで、必ずや成し遂げることができるということです。皆さんの未来が希望に満ちたものであることを心から祈っております。

　ご卒業、誠におめでとうございます。

令和７年３月１４日　山梨県立大学　理事長・学長　早川正幸